

## 【お話おばさんの西播磨昔話】 わらぐろ

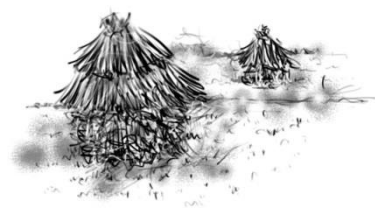
田んぼは切り株だらけになった。田舎の人はよう頑張る。稲刈って、束にして、干して、脱穀して、やっと新米が取れるんや。

おじいはその広い田んぼで仕事や。脱穀した藁を保管するのにわらぐろを作る。藁をなんで保管するのかと不思議に思うやろ。藁は田舎の家にとっては抜群に大切なものやった。お父は毎日きれいな藁を牛小屋に敷いた。汚くなった藁はたい肥にする。捨てるところないで。牛の餌にも小さく切って混ぜた。藁を使った仕事もいっぱいあった。草履作り、コモ編み、縄編み、

元旦のお飾り作りもする。野菜畑のスイカや南京や瓜の下にも敷く。藁は屋根裏にも入れたけど、田んぼに保管するのが一番やった。いつでも使われるもんな。

おじいは円錐状に藁を並べていく。だんだんと高くなってくると、一番上に藁で傘を作るんや。雨に濡れたら藁が傷むやろ。

田んぼにいっぱいわらぐろが並ぶと、こども達は何でも遊びにする。おじいに隠れて藁を抜き、秘密基地を作ったりわらぐろ倒しの競争をした。おじいが丹精込めて作ったわらぐろを、見事にひっくり返した。おじい



わらぐろ

が泣いて怒ったけど、わいらには快感やったなあ。

注 わらぐろは田舎の風物詩だった。昭和40年ごろから動力脱穀機が普及してわらぐろは次第に見られなくなった。牛もいなくなり、藁仕事もなくなり、藁を保管する必要がなくなったからだ。

【文責：浜田多代子】

## 松竹梅の寄せ植えに挑戦

### 生活創造応援隊研修会

12月10日(月)西播磨文化館で、生活創造応援隊の研修の一環として、松竹梅の寄せ植え体験教室を実施しました。講師は応援隊員の永田武三さんです。

寄せ植えが初めての人、経験者など様々です。各自持参した鉢、松、梅、竹、飾り小物等を前にして先ず説明を受けました。「鉢の中に『心』の字を書くイメージで植栽すること。奥は

小高く、松、竹、梅、岩を配置し心の字の一画目と二画目の間に、山奥から流れ出る水を表現すること等々。後は感性で・・・」でもこの感性がなんとも難しくて四苦八苦。皆、手より口が動きつつ賑やかに制作開始。福寿草、万両、葉牡丹、かけ橋、つがいの鶴、小石など思い思いに配置。苔を張り付けて、最後に白い砂で川と池を表現して完成です。水をかけると鉢の中に奥



完成！松竹梅の寄せ植えを前に

山の景色が生き生きと現れました。自分がまるで庭師になった気分です。すっかり寄せ植えに魅了され癒されました。

よい年が迎えられそうな予感とともに、来る年も健康で生活創造応援隊員として、頑張ることを願いながらお開きとなりました。

【取材・文責：長尾智子】



制作に奮闘中



松竹梅の寄せ植え